

業態別の疾病構造割合の推移について

【分析の背景・目的】

令和3年度第3回評議会で発表した分析において、協会けんぽ被保険者の震災前後の業態別の健康度の推移を確認した。

今回は、前回分析によりリスク保有割合が高かった「複合サービス業」と震災前後でリスク保有割合が大きく伸びた「情報通信業」について、疾病構造割合を確認する。

複合サービス業：郵便局、農林水産業協同組合、事業協同組合等
情報通信業：通信業、放送業、映像制作業、出版業等

【方法】

平成25年度から令和2年度における被保険者のレセプトデータについて、業態別・男女別に疾病構造割合を求めた。

分析を行うにあたり以下の仮説を立てた。

仮説1.複合サービス業について、保有割合の高いリスク(代謝、脂質、腹囲、メタボ)に関する疾病(糖尿病、脂質異常症等)の構成割合がほかの業態に比べて高くなる

仮説2.情報通信業について、震災以降保有割合が伸びたリスク(代謝、血圧、脂質、メタボ)に関する疾病(糖尿病、高血圧、脂質異常症等)の構成割合が高くなる

仮説3.福島県全体の疾病構造割合と比べて、特徴的な構造・推移を示す

レセプト件数(男性)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
県全体	1,095,327	1,148,153	1,202,219	1,255,380	1,318,776	1,354,674	1,375,986	1,302,024
複合サービス業	25,501	25,880	25,705	25,316	25,340	24,791	23,452	21,759
情報通信業	16,273	16,468	16,460	16,788	17,403	17,988	18,303	17,399

レセプト件数(女性)	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
県全体	958,695	994,165	1,036,849	1,050,446	1,094,417	1,122,980	1,143,466	1,067,076
複合サービス業	19,049	19,497	20,152	20,573	21,615	22,043	21,278	19,255
情報通信業	6,377	6,225	6,206	6,247	6,510	6,830	6,864	6,315

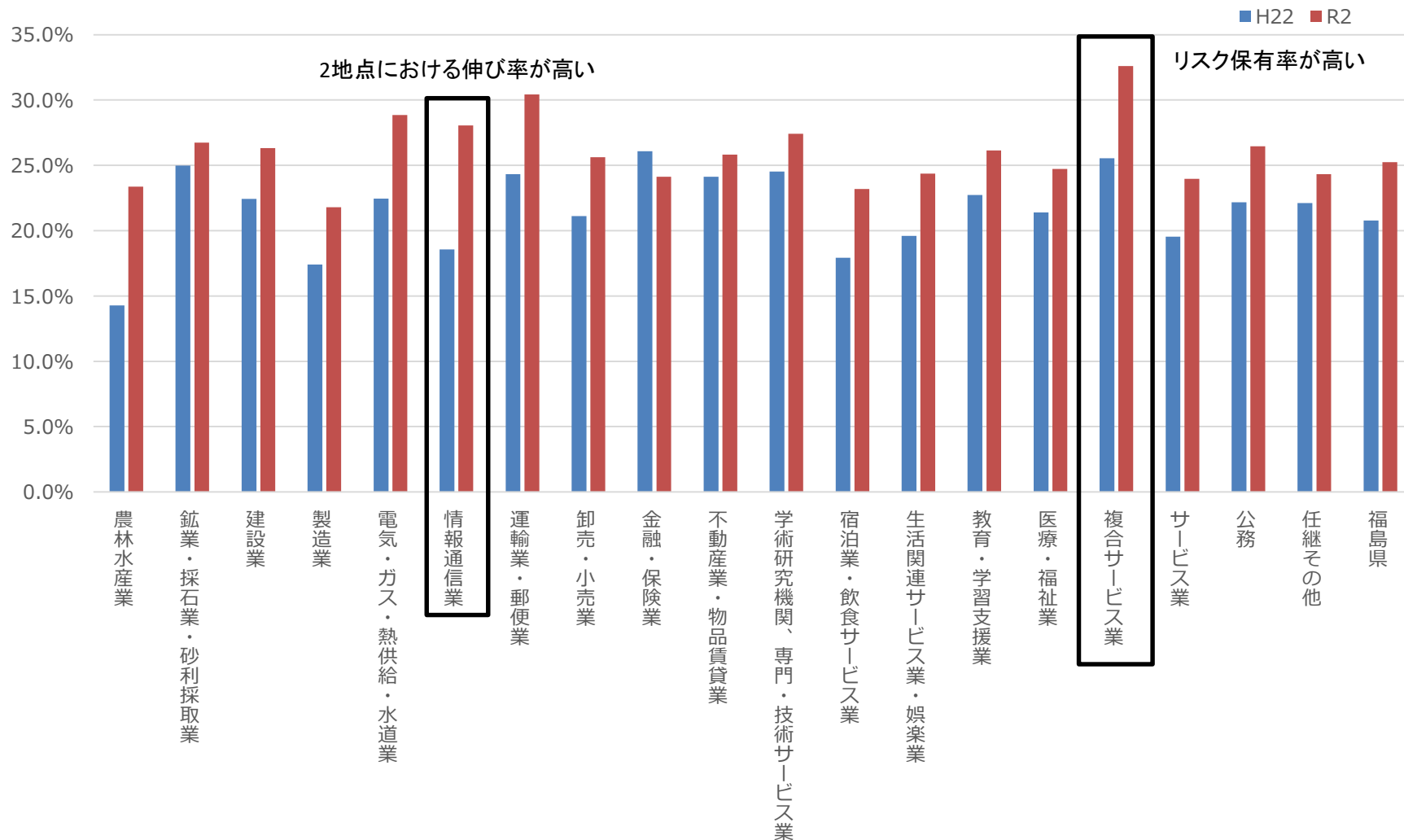
疾病、傷害及び死因の統計分類(ICD-10)

特殊目的用コード	循環器系の疾患
損傷、中毒及びその他の外因の影響	耳及び乳様突起の疾患
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見でほかに分類されないもの	眼及び付属器の疾患
先天奇形、変形及び染色体異常	神経系の疾患
周産期に発生した病態	精神及び行動の障害
妊娠、分娩及び産じょく	内分泌、栄養及び代謝疾患
腎尿路生殖器系の疾患	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
筋骨格系及び結合組織の疾患	新生物
皮膚及び皮下組織の疾患	感染症及び寄生虫症
消化器系の疾患	未コード化傷病
呼吸器系の疾患	

1-1. 平成22年度・令和2年度の2地点におけるリスク保有割合(メタボ・男性)

参考: 前回の分析より

メタボ該当者の割合(男性・年齢調整後)

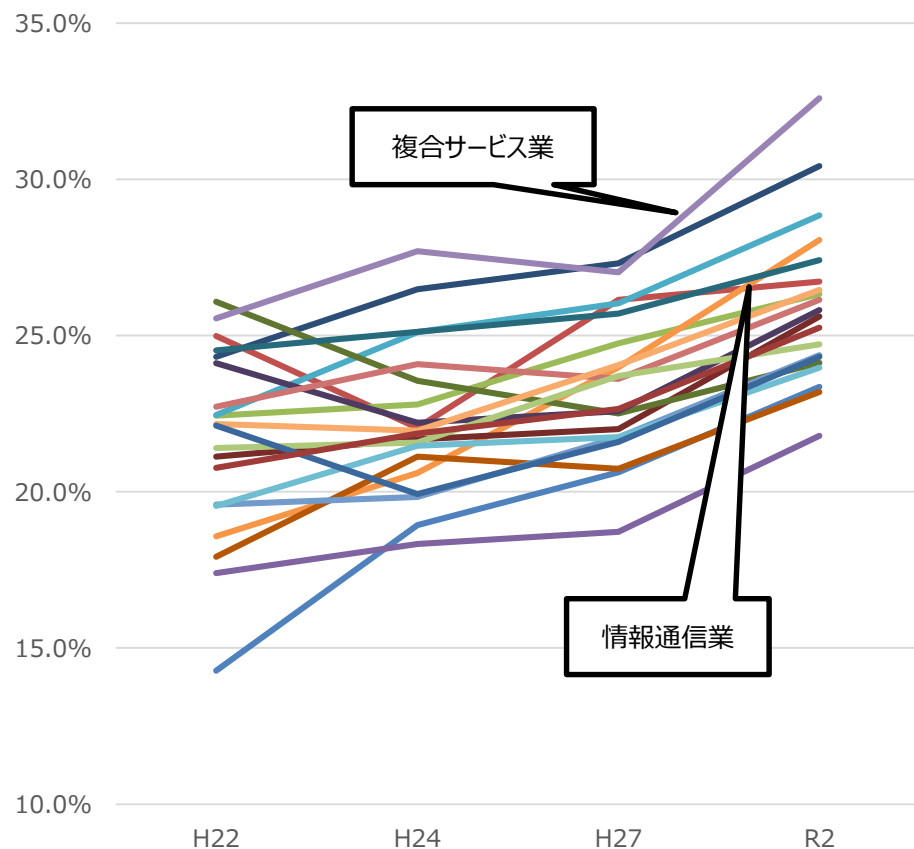
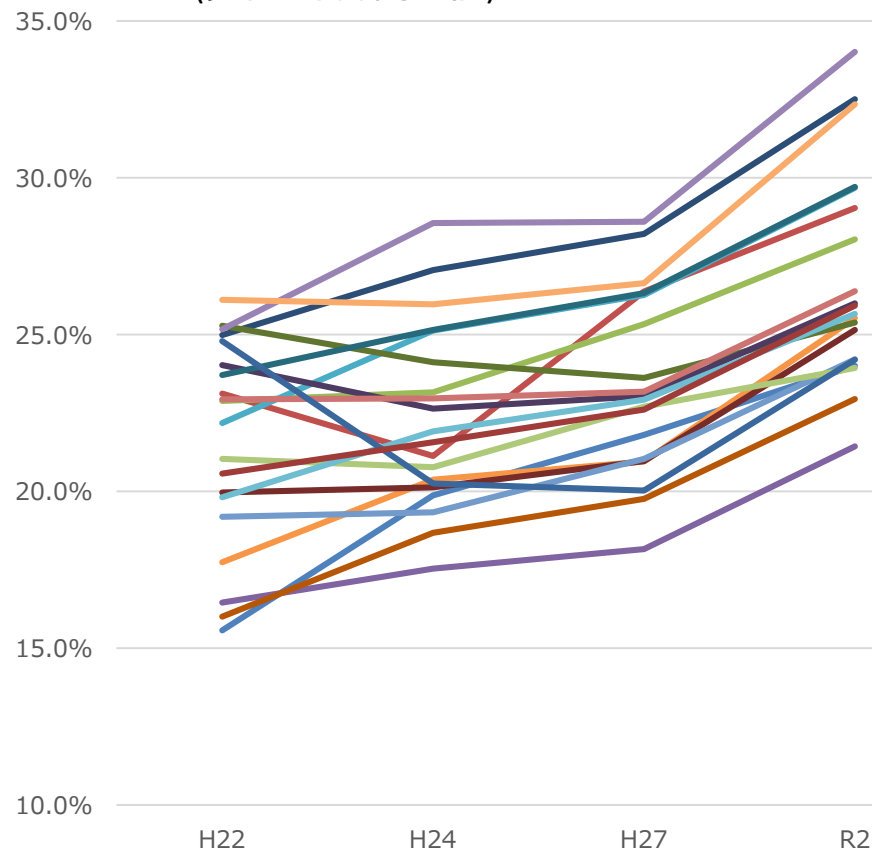


1-2. メタボ該当者の割合の推移(男性)

参考: 前回の分析より

(男性・年齢調整前)

(男性・年齢調整後)

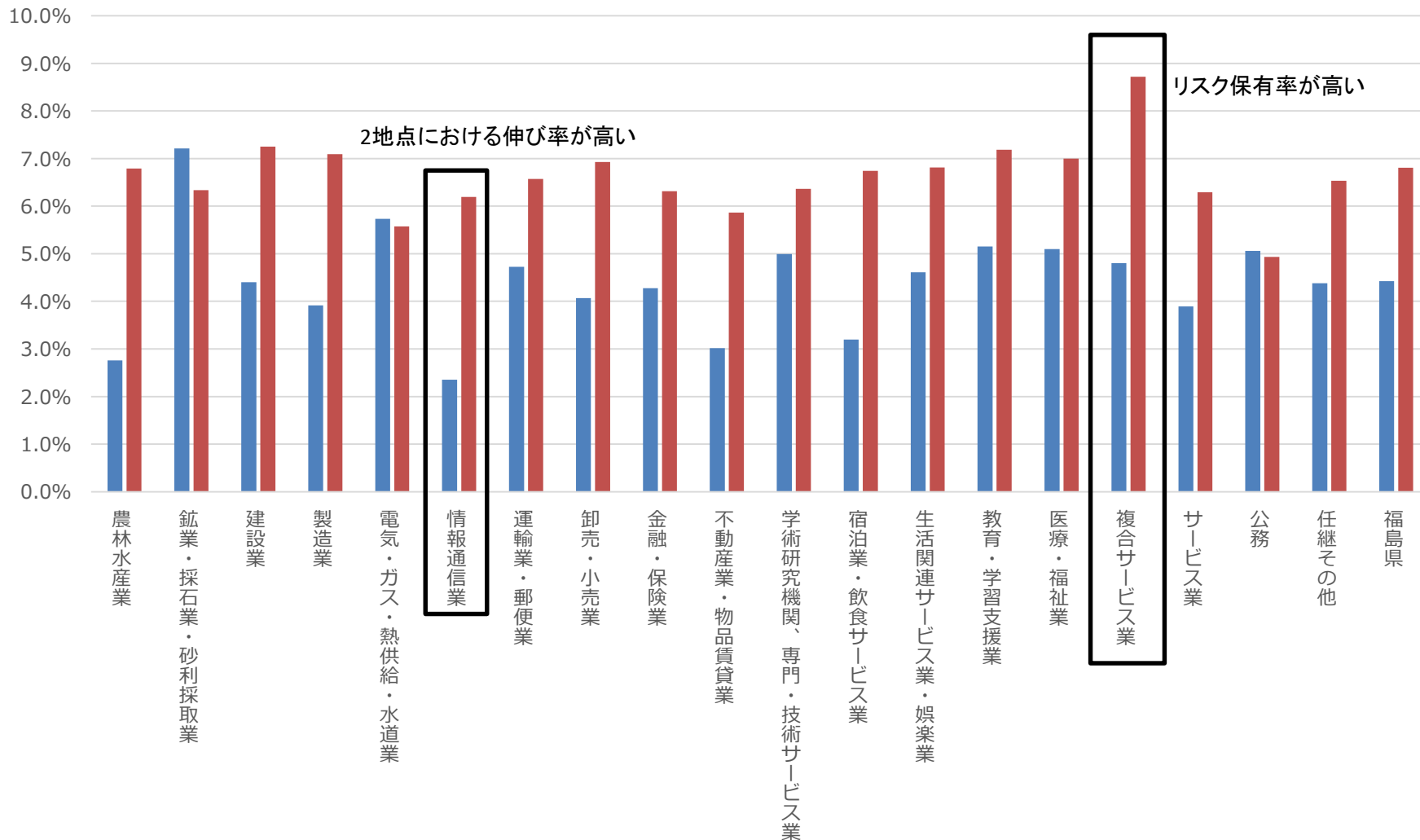


- 01農林水産業
- 02鉱業・採石業・砂利採取業
- 03建設業
- 04製造業
- 05電気・ガス・熱供給・水道業
- 06情報通信業
- 07運輸業・郵便業
- 08卸売・小売業
- 09金融・保険業
- 10不動産業・物品賃貸業
- 11学術研究機関・専門・技術サービス業
- 12宿泊業・飲食サービス業
- 13生活関連サービス業・娯楽業
- 14教育・学習支援業
- 15医療・福祉業
- 16複合サービス業
- 17サービス業
- 18公務
- 20任継その他
- 99福島県

2-1. 平成22年度・令和2年度の2地点におけるリスク保有割合(メタボ・女性)

参考: 前回の分析より

メタボ該当者の割合(女性・年齢調整後)

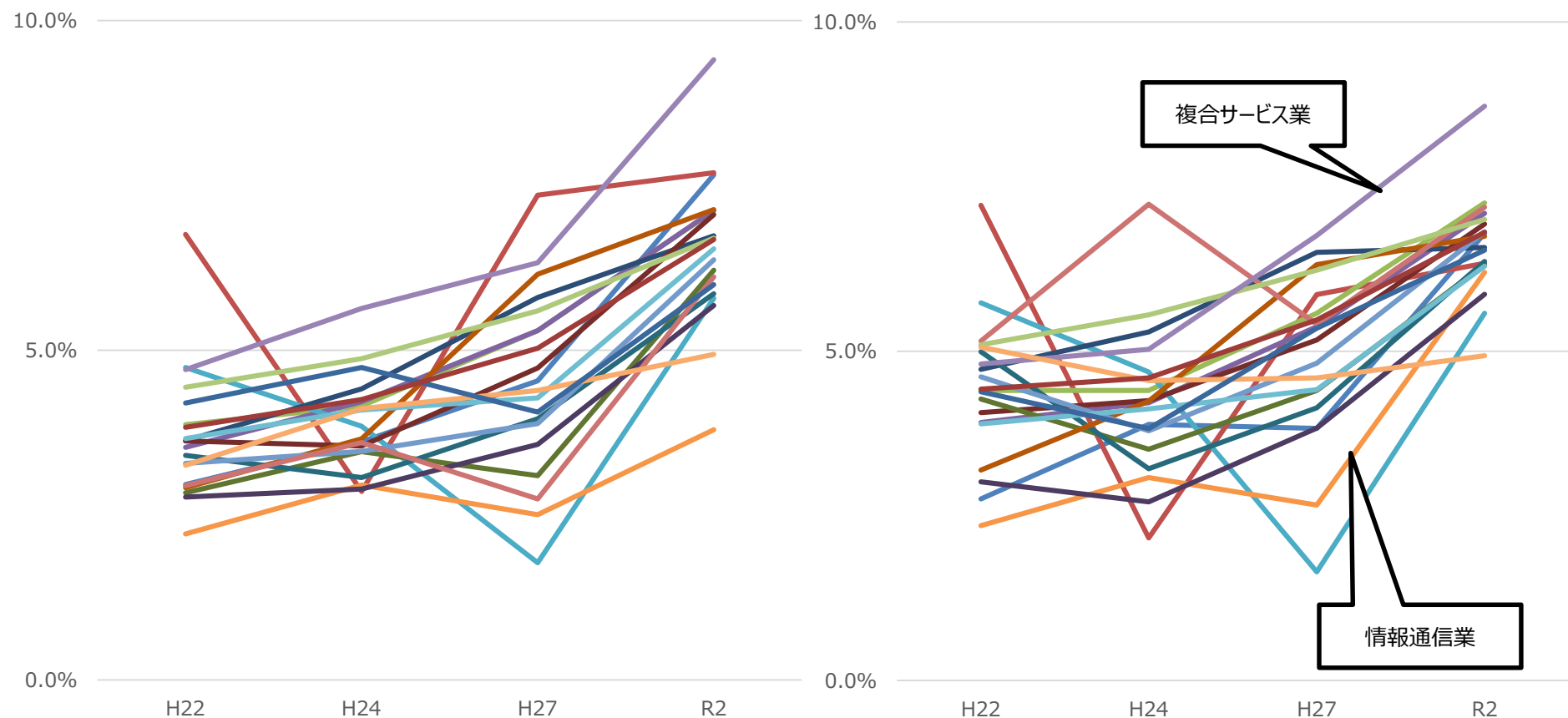


2-2. メタボ該当者の割合の推移(女性)

参考: 前回の分析より

(女性・年齢調整前)

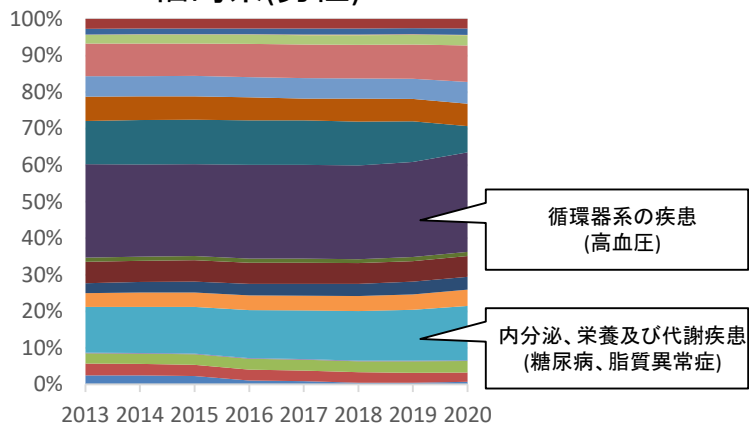
(女性・年齢調整後)



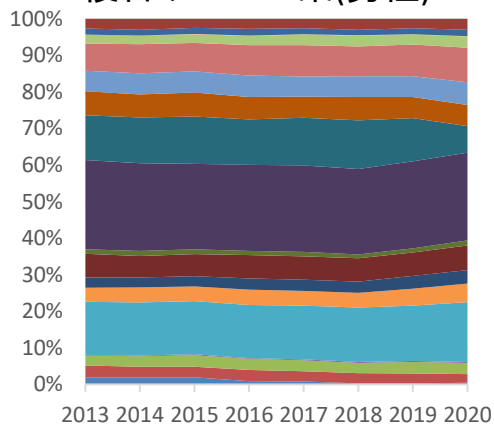
- 01農林水産業
- 02鉱業・採石業・砂利採取業
- 03建設業
- 04製造業
- 05電気・ガス・熱供給・水道業
- 06情報通信業
- 07運輸業・郵便業
- 08卸売・小売業
- 09金融・保険業
- 10不動産業・物品賃貸業
- 11学術研究機関・専門・技術サービス業
- 12宿泊業・飲食サービス業
- 13生活関連サービス業・娯楽業
- 14教育・学習支援業
- 15医療・福祉業
- 16複合サービス業
- 17サービス業
- 18公務
- 20任継その他
- 99福島県

【結果①】

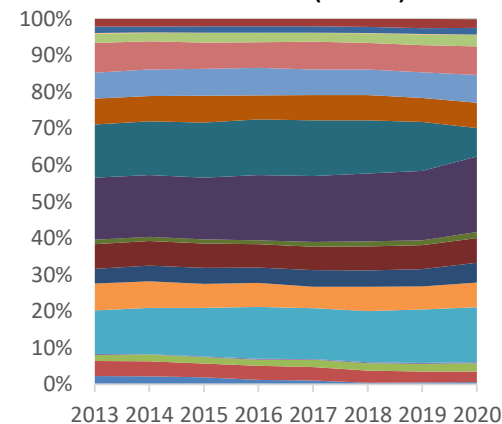
福島県(男性)



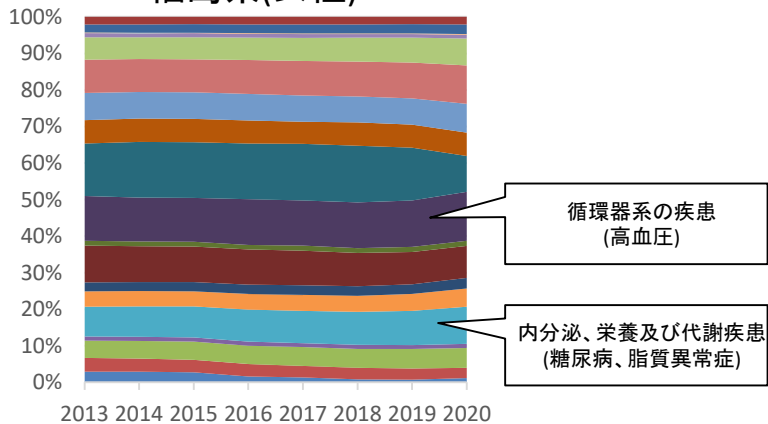
複合サービス業(男性)



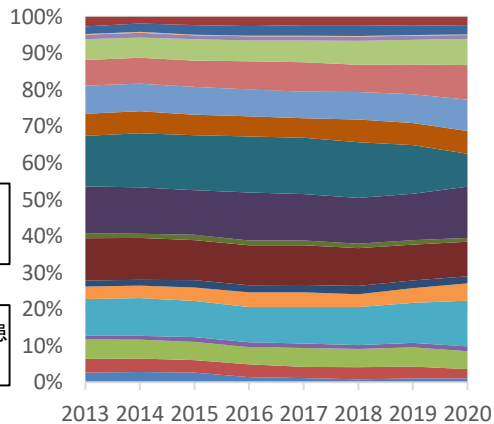
情報通信業(男性)



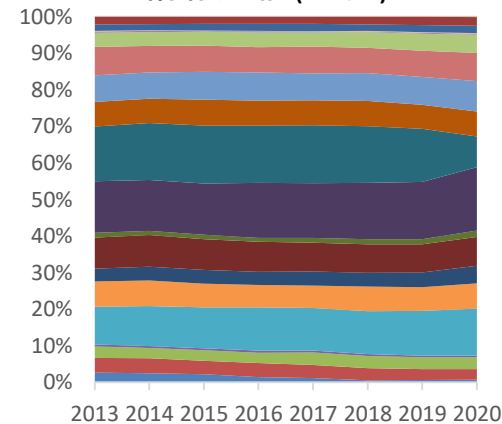
福島県(女性)



複合サービス業(女性)



情報通信(女性)



- | | |
|-----------------------------------|------------------------|
| ■ 特殊目的用コード | ■ 損傷、中毒及びその他の外因の影響 |
| ■ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | ■ 先天奇形、変形及び染色体異常 |
| ■ 周産期に発生した病態 | ■ 妊娠、分娩及び産後 |
| ■ 腎尿路生殖器系の疾患 | ■ 筋骨格系及び結合組織の疾患 |
| ■ 皮膚及び皮下組織の疾患 | ■ 消化器系の疾患 |
| ■ 呼吸器系の疾患 | ■ 循環器系の疾患 |
| ■ 耳及び乳様突起の疾患 | ■ 眼及び付属器の疾患 |
| ■ 神経系の疾患 | ■ 精神及び行動の障害 |
| ■ 内分泌、栄養及び代謝疾患 | ■ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 |
| ■ 新生物 | ■ 感染症及び寄生虫症 |
| ■ 未コード化傷病 | |

※年齢構成割合の変化については考慮していない
(年齢調整は行っていない)

【結果①】

仮説1.複合サービス業について、保有割合の高いリスク(代謝、脂質、腹囲、メタボ)に関する疾病(糖尿病、脂質異常症等)の構成割合がほかの業態に比べて高くなる
→男女ともにほぼ全体と同じ疾病構造の割合を示している

仮説2.情報通信業について、震災以降保有割合が伸びたリスク(代謝、血圧、脂質、メタボ)に関する疾病(糖尿病、高血圧、脂質異常症等)の構成割合が高くなる
→震災以降大きく伸びたリスクにかかわる疾病構造は、全体の推移とほぼ同じ

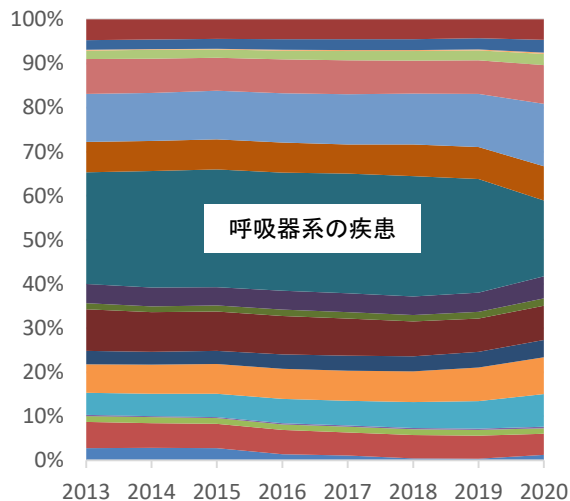
仮説3.福島県全体の疾病構造割合と比べて、特徴的な構造・推移を示す
→福島県全体とほぼ同じ構造・推移を示している

以上より仮説は支持されず、業態による疾病構造の差・大きな特徴はみられなかった。

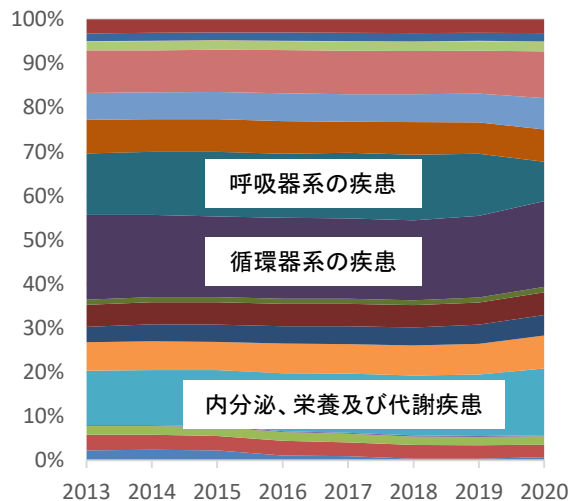
次に業態区分をなくし、年代別・男女別の疾病構造割合を求めた。

【結果②】

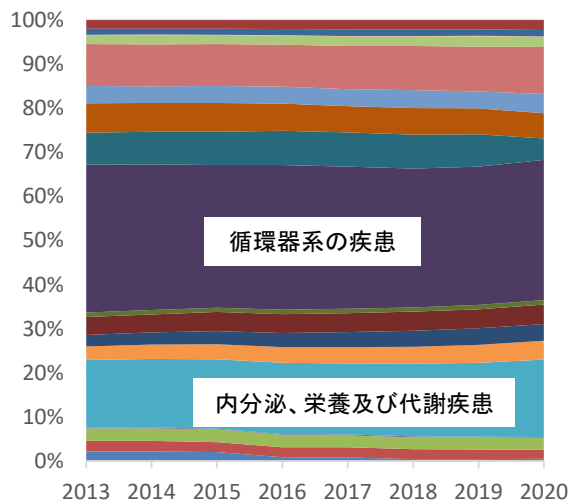
40歳未満、男性



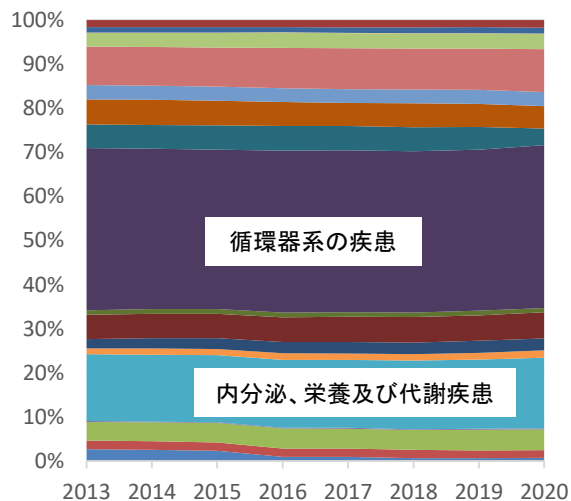
40歳代、男性



50歳代、男性



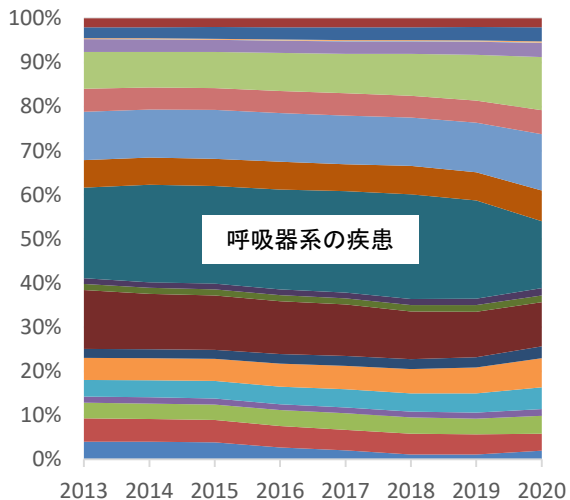
60歳以上、男性



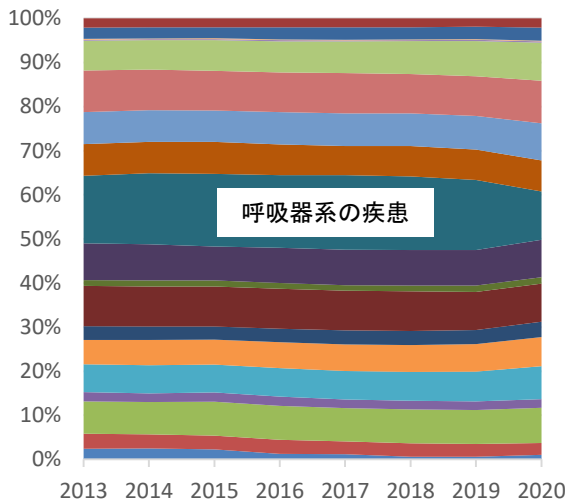
- 特殊目的用コード
- 損傷、中毒及びその他の外因の影響
- 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
- 先天奇形、変形及び染色体異常
- 周産期に発生した病態
- 妊娠、分娩及び産後
- 腎尿路生殖系の疾患
- 筋骨格系及び結合組織の疾患
- 皮膚及び皮下組織の疾患
- 消化器系の疾患
- 呼吸器系の疾患
- 循環器系の疾患
- 耳及び乳様突起の疾患
- 眼及び付属器の疾患
- 神経系の疾患
- 精神及び行動の障害
- 内分泌、栄養及び代謝疾患
- 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害
- 新生物
- 感染症及び寄生虫症
- 未コード化傷病

【結果②】

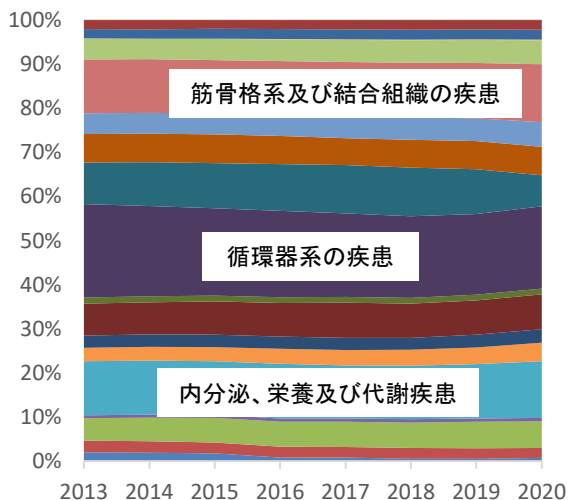
40歳未満・女性



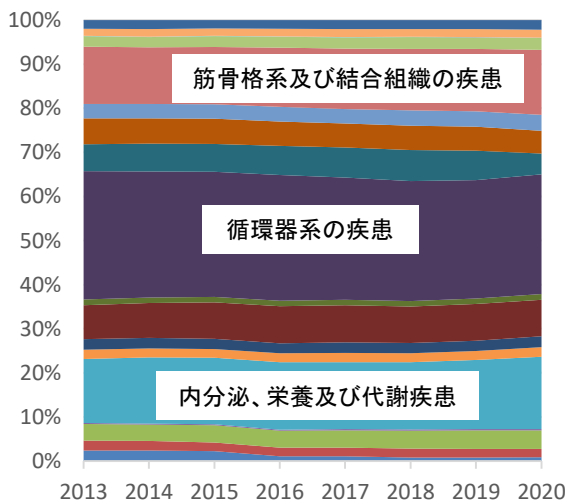
40歳代・女性



50歳代・女性



60歳以上・女性



【まとめ】

- ・リスク保有割合が高かった「複合サービス業」と震災前後でリスク保有割合が大きく伸びた「情報通信業」について、疾病構造を確認した
 - 業態によって疾病構造割合に差はみられなかった
- ・いずれの年代も2019年以降呼吸器疾患の割合が減少した
 - 新型コロナウイルス流行(2019.12～)による受診控え、マスクの着用が要因か
- ・40歳以降、内分泌(糖尿病)と循環器(血圧)の割合が急増
 - 早期の治療、重症化予防が重要
- ・女性は50歳以降筋骨格系及び結合組織の疾患(関節炎、リウマチ、骨粗しょう症)の割合も増加

以上の結果をふまえて、引き続き健診の推進・未治療者への受診勧奨を行いつつ、若年層のヘルスリテラシー向上を目指し、令和5年度の事業計画に活かしてまいりたい。